

太田川の治水～高潮、耐震対策～

高潮対策事業

広島市中心部は、太田川デルタ上に発達した都市で市街地の多くは地盤が低く、また、広島湾が南に向いて開いていることから、高潮に対してきわめて不利な地形条件にあります。このため台風などの襲来により、これまでにも数多くの高潮被害を受けてきました。

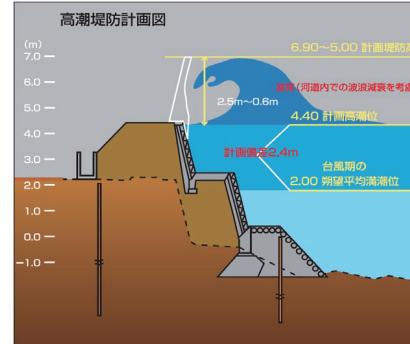
そこで、伊勢湾台風級の台風が襲来した場合にも、広島市内を安全に高潮被害から防御できるよう、太田川放水路および市内派川において高潮堤防を建設する「高潮対策事業」を昭和55年から実施しています。また、阪神・淡路大震災を契機に、平成7年度から堤防の耐震化対策を実施しています。

高潮対策計画

太田川の高潮対策は、伊勢湾台風級の台風が広島湾を通過した場合に起こる高潮にも安全に対処し得るよう、台風期朔望平均満潮位T.P. 2.0mに計画偏差2.4mを加えたT.P. 4.4mを計画高潮位とし、計画波高0.6～2.5m（河道内の波の減衰を考慮）を加えた高潮堤防を建設する計画です。

（T.P.：東京湾平均海面を0mとした高さの基準で、一般的に標高と呼ばれています。）

（計画偏差：台風時の風による吹き寄せと気圧低下による吸い上げのための通常の潮位より上昇する高さ。）



整備事例と整備箇所



緊急用河川敷道路

非常災害時に道路の使用が困難になった場合に備えて、太田川放水路に「緊急用河川敷道路」を整備中です。

太田川デルタは、太田川が運んだ土砂の上に成り立っている軟弱地盤地域であるため、大規模な地震が発生した場合には建物の倒壊等による交通網の寸断や混乱が懸念されます。

このため、非常時の物資輸送や消防車・救急車等の緊急車両のスムーズな移動を目的として、太田川放水路の河川敷に幅約8mの緊急用道路の整備を堤防の耐震対策と合わせて進めています。



耐震対策

下流デルタ域においては、想定される最大クラスの地震動（レベル2地震動）に対する堤防の耐震対策を実施します。

なお、高潮堤防を整備する箇所においては、堤防整備に合わせ実施します。

また、排水樋門等の構造物については、レベル2地震動に対する耐震性能の照査を行います。

